下水道施設災害復旧工事の施工状況

汚水管きょ工事（南気仙沼地区）

汚水管きょ工事（南気仙沼地区）

松岩ポンプ場工事（放流きょ・吐口）（松岩地区）

都市下水路工事（松岩地区）

派遣職員の思い出

光田　豊
名古屋市上下水道局
総務部防災危機管理室
防災危機管理係 技師
派遣期間:
平成30年度～令和元年度
派遣部署:
気仙沼市建設部下水道課

人の話を聞く姿勢から工事の協力を得られた被災地での経験を生かし、防災対策を推進

気仙沼市で下水道施設の設計・工事監督業務を担当しました。下水道事業で名古屋市から派遣された5人目で、私が最後でした。担当の沿岸部は「海と生きる」土地柄で、震災前は堤防もなく、船から降りたらすぐ道路と全国的にも珍しい港でした。

派遣されたころ、防潮堤が計画より高くなるとわかり、住民と宮城県の間でもめていました。何度も話し合いをして、防潮堤を造り直すのではなく、エリア全体を盛土でかさ上げすることで解決するも、行政への風当たりは厳しいものでした。

下水道工事で道路を通行止めする際、稼働中の漁業関係者から反対があり困っていたところ、問題となった防潮堤のことでよくお話を聞いていた方々から、「少しでも復興が早く終わるのであれば自由に土地を使って下さい」とご協力をいただき、う回路として使わせてもらいました。地元の方々の復興への思いと優しさに、助けられました。

人の話に耳を傾ける姿勢は、どこの土地でも同じで大切だと感じました。被災者の話を直に聞き、震災の怖さや町の復興などのイメージがより身近に感じられました。

被災地での経験を生かして、南海トラフ地震などの危機管理対策を進めています。

消防や給水、保健医療、物資の搬送など
被災直後から緊急支援を東北三県に開始

地方自治法に基づく職員派遣以外にも、各種協定等に基づき、本市は全庁を挙げて下記のような支援を行った。

多くの被災自治体で実施した応急・復旧支援等

区　分	内　容
緊急消防援助隊	**平成23年3月11日　16:20から緊急消防援助隊派遣開始　指揮支援隊を岩手県庁へ派遣** ● 3月11日～3月30日に第1次隊から第5次隊までを派遣（3月11日、指揮支援隊を航空部隊が岩手県まで搬送を実施）4月1日18時00分をもって活動終了（4月2日帰名） ● 派遣部隊：指揮支援隊 ● 延べ派遣部隊及び人員：5隊 25名 ● 主な活動状況：緊急消防援助隊の指揮支援活動 人海戦術での捜索 **愛知県隊名古屋市隊を宮城県へ派遣** ● 3月11日～4月22日に第1次隊から第16次隊までを派遣 4月22日17時00分をもって活動終了（4月24日帰名） ● 派遣部隊：愛知県隊指揮隊、消火部隊、救助部隊、救急部隊、後方支援部隊 ● 延べ派遣部隊及び人員：124隊 507名 ● 主な活動状況：宮城県亘理郡亘理町を中心に捜索・救出活動を実施 壊滅的被害を受けた宮城県南部の亘理地区 **愛知県隊名古屋市隊を岩手県へ派遣** ● 3月24日に第1次隊を派遣 3月29日12時00分をもって活動終了（3月29日帰名） ● 派遣部隊：航空部隊 ● 延べ派遣部隊及び人員：1隊 5名 ● 主な活動状況：救急搬送、物資搬送等 浸水が引いた地区の捜索 **名古屋市隊を福島県へ派遣** ● 3月25日に第1次隊を派遣 3月28日16時00分をもって活動終了（3月29日帰名） ● 派遣部隊：総括隊長、特殊装備部隊、後方支援部隊 ● 延べ派遣部隊及び人員：6隊 34名 ● 主な活動状況：福島第一原子力発電所における使用済み核燃料プールへの冷却放水活動支援 **平成23年4月23日　12:00を持って緊急消防援助隊派遣終了** **平成23年5月3日　9:30から緊急消防援助隊を追加派遣　愛知県隊名古屋市隊（ヘリ1機）を宮城県へ派遣** ● 5月3日～5月9日に第2次隊を派遣 5月9日14時00分をもって活動終了（5月9日帰名） ● 5月20日～5月26日に第3次隊を派遣 5月26日9時00分をもって活動終了（5月26日帰名） ● 派遣部隊：航空部隊 ● 延べ派遣部隊及び人員：2隊 10名 ● 主な活動状況：宮城県霞目駐屯地を拠点に被災地の情報収集、救急搬送等を実施 放射線防護の訓練を行うハイパーレスキューNAGOYA **平成23年5月26日　9:00を持って緊急消防援助隊追加派遣終了** **延べ派遣部隊及び人員　138隊 581名**

区　分	内　容
上下水道（水道）	**平成23年3月11日　先遣隊3名を仙台市へ派遣** ● 仙台市及び石巻市の被害状況調査 **平成23年3月12日　第一次応援隊(応急給水)8名を仙台市へ派遣** ● 給水タンク車(3.8m³×2台)で13日より応急給水活動 **平成23年3月13日　第二次応援隊(応急給水)8名を仙台市へ派遣** ● 給水タンク車2台(1.8m³、3.8m³)で14日より応急給水活動 **平成23年3月15日** ① 支援物資搬送 ● 災害用備蓄飲料水「名水」24,000本、5Lポリタンク5,000個を石巻地方広域水道企業団蛇田浄水場へ(4tトラック3台) ② 後方支援隊4名を仙台市へ派遣 ● 宮城県内の応援活動の支援 ③ 調査隊3名を仙台市へ派遣 ● 宮城県内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整 **平成23年3月17日　通水復旧隊7名を仙台市へ派遣** ● 宮城県広域水道送水管の通水作業等 **平成23年3月19日　第三次応援隊(応急給水)12名を仙台市へ派遣** ● 給水タンク車4台(3.8m³×3台1.8m³×1台)で応急給水活動 **平成23年3月20日　本部応援隊2名を仙台市へ派遣** ● 他応援自治体との調整 **平成23年3月23日** **① 第二次通水復旧隊7名を仙台市へ派遣** ● 3月17日に出発した宮城県広域水道送水管の通水復旧隊の増員 **② 第二次調査隊8名を仙台市へ派遣** ● 宮城県内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整 **平成23年3月25日　第四次応援隊(応急給水)9名を仙台市へ派遣** **(第三次応援隊の交代要員)** ● 給水タンク車4台(3.8m³×3台1.8m³×1台)で応急給水活動 **平成23年3月26日　支援物資搬送** ● 災害用備蓄飲料水「名水」15,600本を石巻地方広域水道企業団蛇田浄水場へ(4tトラック2台) **平成23年3月27日　4名を宮城県石巻市へ派遣** ● 石巻地方広域水道企業団の水道管修理、2工事業者14名を同行

給水車での応急給水

応急給水の様子

災害備蓄飲料水「名水」の搬入（石巻市）

区　分	内　容
上下水道（水道）	平成23年4月1日 応急復旧隊 ① 第五次応援隊(応急給水)4名を宮城県石巻市へ派遣(第四次応援隊の交代要員) ● 給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動 ② 第三次調査隊13名を宮城県石巻市へ派遣(第二次調査隊の交代要員) ● 石巻市内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整 通水復旧作業 平成23年4月3日 第二次応援復旧隊4名を宮城県石巻市へ派遣(応急復旧隊の交代要員) ● 石巻地方広域水道企業団の水道管修理、2工事業者14名と同行 平成23年4月7日 ① 第六次応援隊(応急給水)4名を宮城県石巻市へ派遣(第五次応援隊の交代要員) ● 給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動 ② 第四次調査隊12名を宮城県石巻市へ派遣(第三次調査隊の交代要員) ● 石巻市内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整 ガレキのなかでのバルブ操作 平成23年4月10日 第三次応援復旧隊4名を宮城県石巻市へ派遣 ● 石巻地方広域水道企業団の水道管修理、2工事業者14名と同行 平成23年4月13日 ① 第七次応援隊(応急給水)4名を宮城県石巻市へ派遣(第六次応援隊の交代要員) ● 給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動 ② 第五次調査隊12名を宮城県石巻市へ派遣(第四次調査隊の交代要員) ● 石巻市内の水道被害状況の調査、応援内容と応援体制の調整 平成23年4月19日 ① 第八次応援隊(応急給水)4名を宮城県石巻市へ派遣(第七次応援隊の交代要員) ● 給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動 ② 調査隊4名を宮城県石巻市へ派遣 ● 宮城県及び応援自治体等との調整 平成23年4月25日 ① 第九次応援隊(応急給水)4名を宮城県石巻市へ派遣(第八次応援隊の交代要員) ● 給水タンク車2台(3.8m³×2台)で応急給水活動 ② 第二次調査隊2名を宮城県石巻市へ派遣 ● 宮城県及び応援自治体等との調整 平成23年4月30日をもって派遣終了 水道延べ派遣人員　146名

区　分	内　容
上下水道 （下水道）	平成23年3月12日　先遣隊3名を岩手県盛岡市へ派遣 ● 岩手県内の被害状況調査等 平成23年3月16日　調整隊3名を岩手県庁へ派遣 ● 下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集 平成23年3月22日　第二次調整隊3名を岩手県庁へ派遣 ● 下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集 平成23年3月23日　調査隊9名を岩手県庁へ派遣 ● 岩手県内の下水道管路施設の被害状況調査 平成23年3月28日　第三次調整隊3名を岩手県庁へ派遣 ● 下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集 平成23年3月30日　第二次調査隊10名を宮城県石巻市へ派遣 ● 石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査 平成23年4月3日　第三次調査隊4名を宮城県石巻市へ派遣、第二次調査隊の増援 ● 石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査 平成23年4月4日　第四次調整隊3名を宮城県石巻市へ派遣 ● 下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集 平成23年4月6日　第四次調査隊3名を宮城県石巻市へ派遣 ● 石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査 平成23年4月11日　第五次調整隊3名を宮城県石巻市へ派遣 ● 下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集 平成23年4月11･12日　第五次調査隊10名を宮城県石巻市へ派遣 ● 石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査 平成23年4月18日 ① 第六次調整隊3名を宮城県石巻市へ派遣 ● 下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集 ② 第六次調査隊10名を宮城県石巻市へ派遣 ● 石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査 平成23年4月25日 ① 第七次調整隊3名を宮城県石巻市へ派遣 ● 下水道管路施設の調査対象地域の調整、被害状況の情報収集 ② 第七次調査隊6名を宮城県石巻市へ派遣 ● 石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査 平成23年5月2日　6名を宮城県石巻市へ派遣 ● 石巻市内の下水道管路施設の被害状況調査 下水道延べ派遣人員　82名

他都市との合同打合せ状況（石巻市）

マンホール浮上状況（石巻市）

一次調査（石巻市）

テレビカメラによる下水管きょ調査（石巻市）

区　分	内　容
健康	平成23年3月15日～4月9日　8:30 保健師3名を仙台市宮城野区へ派遣 ※ ただし、第2班以降は保健師4名 （1チームの派遣期間：5泊6日　移動日含む） ● 延べ派遣人員　保健師23名、事務・運転担当4名（合計6班） 平成23年4月8日～29日 保健師4名を宮城県東松島市へ派遣 ● 延べ派遣人員　保健師20名、事務担当4名（合計5班） 平成23年3月23日～3月28日 心のケアチーム5名（精神科医1名、保健師1名、精神保健福祉相談員1名、事務・運転担当2名）を宮城県気仙沼市へ派遣 ※25日～は4名体制（事務・運転担当2名→1名） 平成23年5月13日～5月19日 心のケアチーム2名（精神科医1名、事務担当1名）を宮城県気仙沼市へ派遣 平成23年3月21日～25日 医療救護班（医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務2名）2班を仙台市へ派遣 （延べ12名）（病院局・市立大学） 平成23年3月24日～28日 医療救護班（医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名）1班を仙台市へ派遣（病院局） 医療救護班（医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名）1班を仙台市へ派遣（市立大学） 平成23年3月27日～31日 医療救護班（医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名）1班を仙台市へ派遣（病院局） 平成23年3月30日～4月3日 医療救護班（医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名）1班を仙台市へ派遣（市立大学） 平成23年4月2日～4月6日 医療救護班（医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名）1班を仙台市へ派遣（病院局） 平成23年4月5日～4月9日 医療救護班（医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名）1班 平成23年4月8日～4月12日 医療救護班（医師2名、看護職員2名、薬剤師1名）1班を仙台市へ派遣（病院局） 平成23年4月11日～4月15日 医療救護班（医師1名、看護職員2名、薬剤師1名、事務1名） 1班を仙台市へ派遣（市立大学）

健康相談（仙台市宮城野区）

報告会（仙台市宮城野区役所）

気仙沼市に派遣された心のケアチーム

仙台市に派遣された医療救護班

区　分	内　容
健康	平成24年1月6日～9日 看護師1名を福島第一原発内診療所へ派遣（市立大学） 震災により人工透析を受けられなくなった方を対象として市営住宅5戸を提供 ● 入居期間は6ヶ月以内(最長、平成25年3月31日まで更新可能) ● 使用料は無償 予防接種 ● 住民票の異動の有無にかかわらず、定期予防接種及び任意予防接種 （子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌に限る）について、あらかじめ申請することにより接種可能とする。 ● 接種費用は無料 延べ派遣人員　111名

区　分	内　容
動物保護	平成23年7月20日～26日 動物愛護センター技士4名を福島第一原発から半径20㎞以内の警戒区域エリアの9市町村 （福島県田村市、南相馬市、双葉郡楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村）へ派遣 延べ派遣人員　4名

区　分	内　容
被災宅地危険度判定	平成23年4月19日～22日 被災宅地危険度判定士3名を仙台市へ派遣 延べ派遣人員　3名

区　分	内　容
救援物資搬送	平成23年3月13日　6:00　先導車1両4名、10tトラック5両で下記物資を仙台市へ搬送（職員4名派遣） ● 毛布　5,000枚 ● 乾パン　50,000食 ● アルファ化米　5,000食 ● くみ取り式仮設トイレ　5基 ● ストーブ　200台

区　分	内　容
救援物資搬送	平成23年3月17日　14:00 先導車1両4名、10tトラック2両で下記物資を仙台市に搬送（職員4名派遣） ● アルファ化米　53,300食 ● 粉ミルク　4,120箱 ● 粉ミルク（アレルギー対応）　60缶 ● 哺乳瓶　2,950本 ● パン缶詰　2,400食 ● 子ども用紙おむつ　25,672枚 ● 大人用紙おむつ　15,040枚 ● 生理用品　11,264枚 平成23年3月19日 特に被害が著しい3県（岩手、宮城、福島）に対して、その要請に応じてそれぞれ1億円相当の物資を贈呈することを各県知事と合意 平成23年3月22日～3月28日まで 個人、企業等からの下記支援物資の受付窓口を旧六反小学校体育館に設置 ● 保存米飯（乾燥米飯、缶詰米飯、包装米飯） ● 乾パン ● 即席めん ● プルトップ式缶詰 ● 粉ミルク ● 紙おむつ ● 生理用品 受付実績　申込者総数　1,062人　単位:箱 保存米飯 / 乾パン / 即席めん / プルトップ式缶詰 / 粉ミルク / 紙おむつ / 生理用品 / 7品目の総箱数 173 / 114 / 690 / 148 / 113 / 1,179 / 346 / 2,733 平成23年3月24日　9:00 先導車1両4名、4tトラック1両で宮城県牡鹿郡女川町及び本吉郡南三陸町に災害用仮設トイレ40基を搬送 平成23年3月24日 社団法人日本動物園水族館協会から3都市（仙台市、茨城県日立市、岩手県盛岡市）の動物園へ動物飼料の支援要請があり、リンゴ100kgなどを提供 平成23年3月26日　13:00　4tトラック1両で茨城県高萩市にヘルメット500個を搬送 平成23年3月28日　簡易トイレ900箱（90,000回分）を宮城県石巻市に搬送 平成23年3月28日 「名チャリ」で使用した放置自転車107台を、宮城県石巻市へ搬送 （空気入れ10個、パンク修理キット79個を含む）現地での引渡しのため、車両1台と職員4名を派遣

福島県に搬送した電気自動車（平成23年4月）

宮城県に搬送した四輪駆動車（平成23年4月）

岩手県に搬送した四輪駆動車（平成23年5月）

区　分	内　容
救援物資搬送	平成23年4月11日 福島県からの要請により、電気自動車（三菱アイミーブ（i-MiEV））15台を、福島県庁へ搬送 平成23年4月26日 宮城県からの要請により、四輪駆動車（日産エクストレイル 22台、三菱パジェロ 15台、 トヨタランドクルーザープラド 5台）42台及び生活支援物資（紙おむつ、即席めん、生理用品、缶詰、 子ども用おもちゃ、日用品、米・飲料水等）230箱を、宮城県庁へ搬送 平成23年5月2日　福島県からの要請により、電気自動車（三菱アイミーブ）12台を、福島県へ搬送 平成23年5月13日 岩手県からの要請により、四輪駆動車（スバルフォレスター 3台、スバルレガシー 4台、 スバルサンバー 6台）13台を、岩手県庁へ搬送 平成23年5月25日 名古屋市内のNPOを通じて、岩手県陸前高田市から自転車の提供について要請があり、 リサイクル自転車129台を搬送 平成23年6月20日　総務省消防庁の要請により、消防車両（水槽付き消防ポンプ車）1台を 宮城県名取市消防本部へ提供 平成23年6月28日 全国自転車問題自治体連絡協議会に、岩手県盛岡市から自転車400台の提供について要請があり、 名古屋市からは、そのうち、50台についてリサイクル自転車を搬送 平成23年7月4日　岩手県からの要請により、四輪駆動車（マツダファミリア）14台を、岩手県へ搬送 平成23年9月27日 全国自転車問題自治体連絡協議会に、福島県相馬市から自転車400台の提供について要請があり、 名古屋市からは、そのうち、130台についてリサイクル自転車を搬送 平成23年10月27日 名古屋市内のNPOを通じて、宮城県南三陸町から自転車の提供について要請があり、 リサイクル自転車165台を名古屋市から搬送 平成23年11月9日　岩手県からの要請により、高規格救急車（トヨタハイメディク）2台を、岩手県へ搬送 平成23年12月6日 全国自転車問題自治体連絡協議会に、宮城県石巻市から自転車の提供について要請があり、 名古屋市からは、リサイクル自転車58台を搬送 平成24年3月22日　岩手県陸前高田市から自転車の提供について要請があり、リサイクル自転車20台を搬送 延べ派遣人員　16名

区　分	内　容
廃棄物処理	仙台市への震災ごみ収集隊派遣 震災ごみを自己搬入できない高齢者等を対象とした戸別収集を行うため、 車両（大型プレス車1両、小型プレス車2両、中型ダンプ1両、小型ダンプ2両、連絡車2両、合計8両）及び職員を派遣 平成23年5月21日～5月29日 第1次隊21名を派遣 平成23年5月29日～6月5日 第2次隊20名を派遣 平成23年6月5日～6月12日 第3次隊20名を派遣 平成23年6月12日～6月19日 第4次隊20名を派遣 平成23年6月19日～6月25日 第5次隊20名を派遣 延べ派遣人員　101名

職員と車両を派遣

ガレキの収集

畳も仕分けて収集

区　分	内　容
義援金	平成23年3月14日～平成24年3月31日 義援金（中央共同募金会）募集協力 平成23年3月17日から市民利用施設に募金箱設置（16区役所始め359か所） 平成23年3月19日 ボランティア、市社協・市職員有志による街頭募金実施 平成23年3月19日 リニア鉄道館前において市職員有志による街頭募金実施 平成23年3月19日～20日 アスナル金山において、はち丸、ボランティアによる街頭募金実施 平成23年3月20日 オアシス21において市職員有志による街頭募金実施 平成23年3月19日～5月8日（東山公園春まつり） 東山動植物園において、東山公園春まつり期間中、各イベント終了後、職員による募金活動の実施

区　分	内　容
災害 援護資金	平成23年9月3日～12月29日 災害援護資金貸付けに係る審査･振込等事務のため、職員1名を仙台市へ派遣 延べ派遣人員　1名

区　分	内　容
税	平成23年4月15日～28日 愛知県市長会の要請により、り災証明交付にかかる業務（家屋被害調査、証明交付事務等）職員4名を 仙台市へ派遣 延べ派遣人員　4名

区　分	内　容
教育	文化財レスキュー事業への学芸員の派遣 文化庁が実施する東北地方太平洋沖地震被災文化財等支援事業（文化財レスキュー事業）に基づく学芸員の派遣 平成23年7月12日～7月14日（移動日を含む） 仙台市博物館へ名古屋市博物館より1名を派遣 ● 宮城県亘理郡亘理町の旧家での近代文学資料の保管業務に従事 平成23年7月11日～7月15日（移動日を含む） 陸前高田市立博物館へ名古屋市美術館より1名を派遣 ● 陸前高田市立博物館収蔵の美術作品の保管業務に従事 延べ派遣人員　2名

区　分	内　容
子ども	福島県県中児童相談所への派遣 派遣期間：平成23年4月11日（月）から4月15日（金） 4月10日（日）に名古屋市を出発、 16日（土）に名古屋市帰着 児童福祉司1名、児童心理司1名の計2名 福島県県中児童相談所管内の避難所等をまわり、要保護児童の調査等の業務に従事する 延べ派遣人員　2名

区　分	内　容
ボランティア	平成23年3月24日 ボランティア活動の情報を収集するため、職員1名を宮城県七ヶ浜町に派遣 平成23年3月15日 あいち・なごや東北関東大地震ボランティア支援連絡会 （愛知県・名古屋市の被災地ボランティア支援体制の窓口）の立ち上げ 平成23年4月14日 「東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや」の設置 災害ボランティアコーディネーターの派遣 災害ボランティアによる地域防災力向上事業（新しい公共事業支援）において、 名古屋市災害ボランティアコーディネーター18名を岩手県大槌町及び宮城県七ヶ浜町へ派遣 延べ派遣人員　19名

区　分	内　容
選挙	平成23年11月9日～21日 福島県双葉町への選挙事務にかかる支援のため、双葉町福島支所（福島県郡山市）に職員2名を派遣 延べ派遣人員　2名

第8節　産業支援

「陸前高田産業支援デスク」を設置し事業所開設や雇用創出などで企業を支援

本市では、現地の事業所開設や雇用創出等に対する支援が可能な市内企業からの情報の受付や取りまとめ、現地ニーズとのマッチングを行うことを目的として、平成23（2011）年5月16日に「陸前高田産業支援デスク」を設置した。

これまで、陸前高田市や本市で開催される各種イベントへの出展を行ったほか、「陸前高田産業支援デスク」の活動を中心に、陸前高田市の企業と本市企業との商取引マッチングを図るなどの販路開拓支援なども行った。

交流意見交換会の開催

陸前高田市と名古屋市の交流意見交換会（平成23年7月22日）

陸前高田 ⇄ 名古屋

丸ごと支援 経済に息吹

津波に遭ったシイタケ農家は中部地方での販路開拓に再生をかけ、名古屋の土木業者は被災地に事務所を構えた。名古屋市が岩手県陸前高田市で取り組んでいる「丸ごと支援」が、経済交流の実を結びつつある。（北島忠輔、写真も）

津波にのまれた陸前高田の市街地を見渡せる高台のビニールハウス。十八日朝、視察に訪れた河村たかし名古屋市長に、生産者の佐藤博文さん(五二)が直径八㌢のシイタケを差し出した。

「浜風の運ぶ塩分がシイタケの生命力を刺激するんです。独特の風味があるので、名古屋の方にも味わってほしい」

市長はシイタケを顔に近づけ「こりゃ、でっきゃあね」。特徴のある名古屋弁で売り込みに応えた。

海沿いにあった佐藤さんのキクラゲ栽培用のハウスは自宅とともに流失。増設し、量産態勢に入った直後だった。被害額は一億円に上り、借金が残った。無事だったシイタケも販売網が絶たれ、出荷量は半減した。

昨年十月に県産品のPRで名古屋を訪れ、河村市長に支援への感謝を伝えたことが今回の視察につながった。

「復興には商売が栄えないかん。手塩にかけて育てたシイタケをPRしますわ」と市長。名古屋市内の百貨店などでシイタケを販売するお膳立てをしていく考えだ。

佐藤さんは国の補助を受け、来年には再びハウスを拡大する。「大消費地の名古屋に販売ルートを開拓したい。頼れる営業マンとして期待しています」と話す。

◇

名古屋市緑区の土木業、大岡潤さん(五〇)は名古屋市の仲介で昨年十一月、陸前高田市に隣接する一関市に事務所を構えた。陸前高田など被災地で老人ホームとヘルパー養成所を創設する構想を描く。

当初は本業で支援しようと、被災した建物の解体事業に乗り出すつもりだった。「地元企業が優先」と受注できず、「過疎化が進む被災地に必要なのは、雇用先の確保と高齢者の住まい対策だ」と考えを切り替えた。

昨年七月、名古屋市が経営者向けに企画した陸前高田市の視察に参加した。取引や雇用につながる商機を探す狙い。荒涼とした市街地を見た後、現地の経営者から「電気も水道もない。それでも、という志のある人に来てほしい」と言われた。「こりゃ無理だな」と同行者のささやきが漏れる中、「現地に拠点を持ちたい」と申し出た。

市役所に日参し、過疎化で廃校となった小学校の跡地を老人ホームなどの用地に借り受ける段取りを進めている。大岡さんは「被災地の復興には時間がかかる。地元の人に信頼されるよう、腰を据えて取り組みたい」と力を込める。

「名古屋の人にも味わってほしい」と大きなシイタケを河村たかし名古屋市長㊥にアピールする佐藤博文さん＝岩手県陸前高田市で

被災地産 中部で販路

復興へ商機 雇用創出

丸ごと支援　職員295人中68人が死亡・行方不明となった陸前高田市役所の機能回復を名古屋市が支援。復興計画の策定や保健業務、学校や水道の復旧など33職種に延べ127人の職員を派遣した。新年度は道路復旧や高台移転など、復興計画の遂行に携わる新たな業務を含めた13人を派遣する。名古屋市民から寄付を募り、陸前高田の中学生を招待する事業や、被災した企業の製品のPRなど幅広い分野で支援を繰り広げている。

名古屋市の産業支援の紹介記事
（中日新聞 平成24年1月23日夕刊）

陸前高田 食べて 復興支援

東日本大震災の被災地・岩手県陸前高田市の産業復興を支援しようと、名古屋市西区の「ウェスティンナゴヤキャッスル」の中国料理店「柳城」は、陸前高田市の「きのこのSATO販売」が栽培した生シイタケを用いた料理を提供している。

「シイタケのオイスターソース煮込み」など6品を提供している。特に「シイタケと豚ミンチの詰め物黒豆ソース」は「シイタケの食感と香り、豚肉のうまみ、黒豆ソースのコクのバランスが絶妙」という。

名古屋市は、陸前高田市に中長期的に職員を派遣する「まるごと支援」を行っている。11年5月には産業支援課内に「陸前高田産業支援デスク」を設置し、名古屋市内の企業に支援するよう登録を呼び掛けている。現在、ナゴヤキャッスルを含む市内の約50社が登録しており、登録企業が陸前高田市の企業との商取引を始めたのは今回が初めてという。

きのこのSATO販売は、シイタケやキクラゲを関東地方の飲食店などに出荷していたが、震災でビニールハウスが被災、昨年5月ごろに事業を再開した。ナゴヤキャッスルによると、同社のシイタケは「肉厚でおいしい」と利用客から好評という。【高木香奈】

ナゴヤキャッスル シイタケを中華料理に

陸前高田市の企業が生産したシイタケを使った「シイタケと豚ミンチの詰め物黒豆ソース」＝ウェスティンナゴヤキャッスル提供

陸前高田市産のシイタケ受注の記事（毎日新聞 平成24年4月12日朝刊）

イベントへの出展等でも支援を実施 特産品を広くPRし販路拡大へ

産業支援デスクはイベントへの出展支援として、「陸前高田市産業まつり」、「名古屋まつり」、「名古屋城夏祭り」等への出展について支援を行ってきた。

「陸前高田市産業まつり」へは平成24(2012)年度から令和元年度まで参加し、名古屋市ブースでは味噌串カツや手羽先など名古屋めしの販売を、ステージイベントではキラッ都なごやメイツによるクイズやロボットステージ、ロボット操縦体験等を実施した。

「名古屋まつり」では、平成23年度から平成27年度まではオアシス21、平成28年度から平成30年度までは久屋大通公園においてブース出展し、陸前高田産品を販売した。

平成27年度からは名古屋市内で開催された「名古屋城夏祭り」への出展支援を行い、陸前高田市役所の出展支援、産品のPR及び販売を行った。

その他にも、「有松絞りまつり」や「旅まつり」などでチラシ配布を行うなど、イベントへの出展支援を通じて、陸前高田市の支援を行ってきた。

イベントへの出展

陸前高田市産業まつりでの名古屋市ブース

名古屋まつりでの陸前高田市ブース

名古屋城夏まつりでの陸前高田市ブース

有松絞りまつりでの陸前高田市PR

情報交換や交流を通じた販路開拓の支援
取引マッチング・ネットワーク構築に効果

産業支援デスクは陸前高田市の企業の販路開拓を支援するため、陸前高田市産品を扱う企業と名古屋の飲食事業者との取引マッチングを図る商談会を実施した。

平成24（2012）年度は「岩手・名古屋食の交流会2012」として商談会を開催し、食をテーマに両市の企業の交流を進めた。平成25年度には、岩手の生産者、食品加工業者と情報交換や商談を行う「岩手・名古屋食の交流会in名古屋」を開催した。

陸前高田市における商談会は、平成26年5月と平成27年10月の2回実施し、陸前高田市や大船渡市等の事業者から延べ58社、名古屋側の事業者から延べ21社の参加があった。

平成28年度から令和元（2019）年度まで、本市において例年2月頃に名古屋商工会議所主催で開催される商談会「売り込み!商談マーケット」に陸前高田市企業がサプライヤーとして招待され、水産や農業加工品をアピールした。陸前高田市の企業は、会社の概要や東日本大震災での被災について説明し、サンプルを示しながら商品を説明した。

上記の通り、平成24年度、25年度は本市にて、平成26年度、27年度は陸前高田市にて、本市主催の商談会を開催した。これらの商談会の開催等をきっかけに、平成24年度は10件、25年度は9件、26年度は14件、27年度は3件、28年度は2件、29年度から令和元年度はそれぞれ1件の商取引マッチングの成果があった。

また、マッチングにつながらないまでも、当地域のバイヤーとのネットワークの構築や、商談における自社商品へのフィードバックを得られるとの声も多く、商談会の開催は非常に意義のあるものとなった。

販路開拓の支援

「岩手･名古屋 食の交流会2012」

名古屋市職員と接して

派遣職員にすすめられ、名古屋での商談へ
「陸前高田の奇跡のきのこ」で販路開拓

名古屋とのお付き合いは、名古屋市職員の訪問からです。地域を回っておられて、うちのきのこを名古屋で売らないかとすすめてくれました。名古屋市内で陸前高田の企業数社を集めた商談会が最初の企画でした。全てをなくした震災ですが、人の温かさも心に突き刺さるほど感じました。何でも可能性があればやろうと思って参加しました。

震災前からうちのきのこは、「奇跡のきのこ」という商標を持っています。津波をかぶるくらい海の近くなので、潮風を浴びるきのこはミネラル分も豊富です。塩分のせいで他の産地と比べると成長が遅い一方、旨味が凝縮。陸前高田の風土が生んだ奇跡のきのこ、とのことで取得した商標です。名古屋のみなさんに、津波の被害を受けただけではなくて、美味しさをアピールし、販路を開拓できました。

その後、名古屋で陸前高田の学生を看護師として養成する話を聞いて、これはお手伝いしなくてはと私も寄附をしました。地元に戻ってがんばっているという話を聞くとうれしいですね。

佐藤博文 さん
きのこのSATO株式会社
代表取締役

会計士やデザイナーなどの専門家派遣事業 経営・商品開発へのアドバイスで経営改善へ

本市は、平成26（2014）年度から平成30年度まで「専門家派遣事業」を実施し、公認会計士やデザイナーを無償で陸前高田市へ派遣し、現地企業の商品開発や経営への助言を行うとともに、財務会計、経営改善、商品のパッケージデザインなどについて相談を行った。

公認会計士の派遣では、平成26年度に箱根山テラスで講演会を開催し13名が参加した。ある企業では、経営改善相談後、受注案件が増加、採算向上等の改善がみられ、令和元（2019）年度には黒字転換の見込みとなる企業もあった。

デザイナー派遣事業では企業のパッケージデザイン、パンフレットデザイン、看板デザイン、ロゴマークの作成について企業と派遣デザイナーで相談を行い、多くは実際に採用された。

会計士やデザイナーといった専門家がニーズのある市内企業を訪問し、会計士については事業計画の作成指導や融資の返済方法の相談を行い、デザイナーについてはデザイン企画案の作成や提案を行い、企業が事業を行う上での基礎的なノウハウを伝え、一定の役割を果たすことができた。

専門家派遣事業

派遣された専門家と打ち合わせを行う陸前高田市の事業者

人材確保支援事業で高校生の企業訪問 企業側も高校側も大きな気づきを得た

人材確保支援事業として、陸前高田市内に所在する企業への就労を促進するため、高校生を対象とした企業訪問を実施した。地域の若者が大学などを出た後、そのまま市外に就職してしまい、思うように若手の人材を雇用できないといった地元事業者の悩みの声があり、令和元（2019）年度から事業を実施することとなった。（株）八木澤商店（醸造業）、酔仙酒造（株）（酒類製造）、キャピタルホテル1000（株）（ホテル業）、（株）シェリール（下着製造業）、（株）ボンマックスアパレル（オフィスウェア製造業）、きのこのSATO（株）（農業）、広田湾漁業協同組合の7社が手を挙げた。

企業合同説明会を2回開催し、1回目はワークショップ形式により自社の現状、課題を洗い出し、その解決策やミッション、理念を再確認した。2回目もワークショップ形式により企業訪問に向けた自社のPRポイント、PR資料などを確認した。

その後、企業訪問として、岩手県立高田高校の2年生121名が、8グループに分かれ上記7社を訪問した。各グループにファシリテーターの同席のもと、事業者と高校生の対話を促進した。

参加した企業からは、「若者の雇用に対する意識の醸成、事前の準備が大切であることを認識した」、「地元の高校生に自社が全く認知されていないことがわかり情報発信の大切さを改めて感じた」、「ワークショップや高校生の企業訪問を通して、若者を雇用することについて今一度考える機会ができた」という声があった。

生徒を参加させた高校からは、「生徒から地元の企業を知ることができたことや働く人の仕事に対する思いがわかったといった感想があり、興味深く参加した生徒が多く良い取り組みであった」、「他の職業を学ぶ事業と本事業と役割の棲み分けができて、学校にとっても良かった、継続して実施することで地元での就職を考えるきっかけになれば良い」、「働くことを考えるコミュニティを作って、企業・経営者と生徒との距離が縮まると、就職・就業のミスマッチが減るのではないか」という声があった。

人材確保支援事業

高校生が参加した地元企業訪問の様子

震災から10年、産業支援から産業交流へ両市の事業者等による交流に軸足を移す

本市は、平成26(2014)年10月に陸前高田市と友好都市協定を締結し、復興支援を進めてきたが、震災から10年を節目に「支援」から「交流」への転換を図ることを機に、市民交流団を派遣することで、産業面での交流を行い両地域の発展を促進していくこととした。

令和2(2020)年度までは「陸前高田産業支援デスク」による現地企業への様々な支援等を実施してきたが、令和3年度以降は、名古屋市被災地域支援本部会議の方針に基づき、「支援」から「交流」に軸足を移していくこととなり、産業支援についても、支援から両市の事業者等による交流へと移行していくこととなった。

産業交流団派遣事業

陸前高田市での両市の事業者の交流の様子

第9節 医療支援

岩手県立高田病院への名古屋市立大学病院看護師の派遣

“行政丸ごと支援”で培った縁を生かし 看護師派遣で大災害時の学びも得る

名古屋市立大学病院では、震災後、被災地への医療救護班をはじめ、医師・看護師等を派遣するとともに、本市の“行政丸ごと支援”を契機として始まった陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクトにおいて、就労体験先として中学生の受け入れや、全行程への看護師の同行を行った。

こうした陸前高田市との縁もあり、仮設診療所で診療を再開していた岩手県立高田病院及び岩手県医療局、名古屋市立大学と調整を重ね、高田病院へ看護師を派遣することとなった。

被災地医療機関への支援を行うとともに、被災地医療及び病院復興のプロセスを学ぶことで、今後想定される大規模災害に備えることとした。

現地で得た被災地医療の貴重な経験 個々の意識を高め、名古屋市へ還元

平成24（2012）年9月から12月まで、7名の看護師を2週間ずつ高田病院へ派遣し、外来業務や病棟業務、訪問診療等の支援を行った。

また、高田病院が作成したプログラムにより、被災地医療も学んだ。派遣された看護師が被災地域の仮設病院での看護や仮設住宅等への訪問診療を経験することで、地域医療における看護の役割を再認識し、災害に対する意識を高めることができた。

派遣終了後には、派遣された看護師が名古屋市立大学病院にて、現地で学んだことについて報告会を行い、その経験を本市へ還元した。

岩手県立高田病院への看護師派遣報告会
（平成25年2月1日）
提供：岩手県立高田病院

テーマは
「復興の医療現場で私たちの学んだこと
そして伝えたいこと」
提供：岩手県立高田病院

岩手県立高田病院

旧高田病院は、最上階の4階まで浸水し全壊した。
平成23（2011）年7月からは仮設診療所で診療を再開し、平成30年3月に再建した。

被災した旧高田病院

高台に再建された高田病院

名古屋市立大学病院の看護師が派遣された仮設診療所

名古屋市立大学看護学部における陸前高田市特別枠の設置

名古屋市立大学病院での就労体験から看護師育成という形の医療支援を企画

陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクトにおいて、陸前高田の中学生の多くが就労体験で看護師を希望したため、名古屋市立大学病院において就労体験を行った。その際、病院の規模や充実した設備に生徒が感激し、看護師になる思いを強くしたとの声や、将来に夢を持てたとの評価をいただいた。

陸前高田市からも、震災復興計画として地域包括ケアシステムの構築や、地域医療施設の整備に重点的に取り組むことから、地域医療を支える看護師の需要が高く、看護の中核的人材の育成が急務であるとの要請があったため、本市は名古屋市立大学と、同大学看護学部における特別枠設置に向けての検討を開始した。名古屋市立大学看護学部の教授会において、人材育成による陸前高田市の復興支援として、特別枠の設置が承認された。

平成24(2012)年5月25日に名古屋市立大学から文部科学省あてに入学定員変更申請書を提出し、平成24年8月31日に名古屋市立大学看護学部の定員変更について承認され、平成25年度から陸前高田市特別枠が設置されることとなった。

名古屋市立大学病院での中学生の就労体験

血圧測定にトライ

プロの職場に少し緊張

白衣に着替えた中学生

地域医療を支える中核的人材育成 毎年2名ずつの修学機会提供

平成29年度入試の5年間で毎年2名ずつの学生を受け入れることとなり、対象は出願時点または東日本大震災発災時（平成23年3月11日）に陸前高田市に住民登録を有し、岩手県気仙地区（陸前高田市、大船渡市及び気仙郡住田町）内の高等学校卒業（見込み）の者である。入学者に対しては以下のような支援がなされた。

- 入学検定料及び入学料、４年分の授業料を全て免除
- 名古屋市立大学病院の看護師が入居する宿舎を提供
- 家賃の一部を名古屋市と名古屋市立大学で負担
- 希望する学生への支援金
- 名古屋市立大学病院の看護師による生活等へのサポート

本市が上記のような支援を行うにあたっては、個人や団体、企業から多額の寄附金をいただいている。特に、東海岩手県人会からは多額の寄附金をいただき、制度の運営にあたりご尽力いただいた。平成29年度から毎年、年度当初には顔合わせ会、年度末にはお別れ会を市役所にて行い、東海岩手県人会の関係者へ学生たちが大学で学んだことを報告するとともに、感謝の気持ちを伝える機会を設けるなど、各関係機関とも連携が取られた。

名古屋市で看護学を学んだ10名は卒業後、岩手県へ戻り地域医療の中核を担うべく、医療機関等にてさらなる研鑽を積んでいる。10名のうち1名は保健師として、岩手県内の保健所に勤務している。

名古屋での学びの広がり

名古屋市立大学看護学部

名古屋市立大学看護学部での実習

卒業後、岩手県立大船渡病院で勤務する看護師

いつも笑顔で　提供：岩手県立大船渡病院

医師の指示を確認する看護師　提供：岩手県立大船渡病院

点滴の確認を行う看護師　提供：岩手県立大船渡病院

名古屋市民へのメッセージ

大きな大学病院で学べた学生生活 保健師として地域に向き合っていきたい

震災時は中学1年生で、学校の保健室が病院の救護所でした。お腹が痛かったとき、大変な人がいっぱいいるのに、腹痛ぐらいで行っていいのかなと思っていました。看護師さんに「来ていいんだよ」とやさしく接してもらい、素敵だな、看護師になりたいなと思いました。

でも、進路には悩みました。家は流されて二重ローンを抱えていました。授業料免除の支援があると聞いて、うれしかったです。大学の4年間は充実し、あっという間。名市大病院は、陸前高田では考えられないくらい大きな病院です。設備も揃っているし、本格的な実習でありがたかったです。

大学1年生の最初の実習で、看護師さんから言われました。患者さんが治療して地域に戻ってから、この人はどういう生活をするのかなと思い、先の生活のことまで考えるのが看護の仕事だよと。今は保健師として、地域がフィールドです。保健師の仕事は究極のお節介と言われています。寄り添う気持ちを忘れずに、1つ1つのケースに向き合っていこうと思います。

佐藤　舞 さん

令和2年3月
名古屋市立大学
看護学部卒業
現在は岩手県大船渡保健所で保健師として勤務

フォローアップ研修

陸前高田市特別枠の卒業生登録制度を設け、登録に同意した卒業生に対し、陸前高田市と名古屋市から10年間のアフターフォローを受けられるようにした。この制度に登録した卒業生を就業2年目に名古屋市立大学病院に招いてフォローアップ研修を実施した。卒業生が従事している看護について、名古屋市立大学病院で実践している看護を知り、さらに名古屋市立大学病院の看護師と意見交換することで、より深い看護の意義を理解し、岩手県へ持ち帰ることで医療技術の向上につなげていただくことを目的としている。また、この制度に登録した卒業生は、陸前高田市長へ毎年度近況報告をすることとしている。

東海岩手県人会との交流

平成29年度顔合わせ会

令和元年度顔合わせ会

被災地への思い

石井　弘子 さん

東海岩手県人会会長

広がった支援の輪!
名古屋市との連携で私たちは力を集中できた

東海岩手県人会は震災以降一貫して、被災地支援を続けてきました。名古屋市と連携できたので、被害の大きかった陸前高田市の中学生の交流事業や、看護学生の養成支援に力を集中できました。中学生招待プロジェクトには準備段階から関わり、名古屋市職員の皆さんと共に、市民に募金を呼びかけました。中学生が名古屋に来るたびに県人会有志が空港で送迎し、就労体験にも付き添いました。

名古屋市立大学の看護学生養成事業が始まってからは、こちらにも力を注ぎました。もともと岩手県は医療が手薄な地域で、岩手の医療を何とかしたい、というのが私たちの25年来の念願です。優秀な看護師が地域医療にどれほどの力を発揮するかわかっていましたから、私たちの望みがまさに実現すると知り、さらなる全面協力を決意しました。

名古屋で成長し、様々な出会いを得た彼女たちが、これからの岩手県の医療を支えます。名古屋市が陸前高田市への支援を決めた瞬間から、この一連のストーリーが始動し、東海岩手県人会を含む多くの団体、多くの人々が連携しました。募金活動や寄附、ボランティアを通じて私たちはつながりました。この素晴らしい連携の力を広げるため、これからも活動を続けます。

陸前高田市民・市職員との交流

派遣職員に寄せられた感謝と労い

震災から半年たった秋、陸前高田市の住民・職員と、
派遣された名古屋市や他市・他県の職員との懇親会が設けられた。
派遣職員たちに感謝の思いと労いを伝えたいと開催されたもので、
場所は仮設の共同浴場だった「復興の湯」。
三陸名物のサンマなど料理とお酒がふるまわれ、
派遣職員も地域住民も日頃の張りつめた緊張がほぐれて語り合い、
楽しいひとときをともに過ごすことができた。

炭火で焼かれた名物のサンマ

近くの仮設住宅の住民も参加した

みんなで踊った高田音頭

会場の「復興の湯」

地域住民の話を聞ける貴重な時間となった